

土木學會第1回年次學術講演會講演

(施工法及隧道之部 No. 9)

安 治 川 河 底 隧 道

會員 福 留 並 喜*

本事業は大阪市第2次都市計畫事業街路安治川市岡線の新設に伴ひ、安治川に於ける在來の源兵衛渡の渡船連絡を廢止し、新に一般交通用の河底隧道を築造せんとするものである。

工事は昭和10年11月3日着手、昭和13年末竣功の豫定にして、總工事費1300000円を計上した。

1. 計 畫 昭和5年土木學會關西支部は大阪市の依頼により安治川筋下流横断設備の改善計畫に就て研究の結果、急施を要する位置として、源兵衛渡附近を推定し、その設備型式として沈埋式工法による隧道を最も適當なものとした。之即ち目下施工中の安治川河底隧道計畫の骨子をなすものである。

2. 構 造 本隧道の河底部は延長80.6mにして、中央部49.2mを沈埋管とし、その兩岸寄には昇降機前廣場を設ける。隧道内には歩道1線と車道2線とを備へる。沈埋管は軟弱な河底地盤に依頼せず、その兩端にて支持せられる桁構造とする。

昇降機室は其中に歩行者用昇降機2臺並に車輛用昇降機2臺を容れ得る様にし、前者の周圍には階段を設ける。尙昇降機室は構造上將來取付隧道接続に支障のない様に用意した。

3. 附 帶 設 備 昇降機は歩行者用2臺と車輛用2臺とを設備する。尙照明、排氣及換氣等に對しても適當に設備するものとする。

4. 施 工 兩詰工事は時期を異にして施工し、その完成後中央部河底を浚渫して豫め製作して置いた沈埋管を沈設する。沈設は流速最小な時間を選び數時間にして完了せしめる豫定である。而して接合部仕上をなし、爾餘の諸工事を完成するものとする。

(註：本文の詳細に就ては土木學會誌第23卷第7號を参照されたい)

* 大阪市土木部長 工学士 (昭和12年4月11日講演)